

特 別  
~12  
5091  
1





光源氏物語乃たうわい村上天皇女十文  
 抄傳さいわんいあ上東門院へあつゝのたう  
 けうしやゆふとあつひやさせたまひの事源は  
 うつり行ごあやうの物さうりハめさ進しれ  
 あつゝくはらわつてなまふくさうり  
 初は信ら進なれも石山は通敷してび  
 をいのまに抄傳八月十六日の月湖  
 水まうつわて心乃をみまうらまうは物語の  
 風括うたういなるは事名うめくうわ  
 又名平書は通敷うしてまたのうを





ゆゑに初つてわが友のうきうきふいふあり  
を中にも若し紫花巻とゆうえんみはしく  
甲斐ふれえとてその名と世式尸とせられ  
けりとなしは但ばかりうらむる紫平の甲斐  
河原親王のゆき母を伴豆内親王其品  
たらくいなく又あつちきよけはる屋まうとうい  
そへきりし事きりさむとて先源氏君  
とゆかりあきわかのたけり乃婦まは二  
系五條乃二人は后よ志のいさむつりよ  
ようつて薄やれ女院勝月秋の内侍乃

かみとあつちせわれのいさむつり  
契をいさむとてあつちせわれとて  
或説西乃えれた人信之明云ハ醜醜の西乃  
のゆきにそく一世乃源氏也みめうら人よす  
これ詩歌管弦よくうらむとて源氏と  
いひわらふ志めをあらあつちて紫上とて式  
り名よよせとてあつちか乃高明云たさい若  
き月ようつせれてはくしへゆいじきし事  
あつちと源氏治たあつちよとせとて  
あつちとんせり海とよとてあつちとてあつち

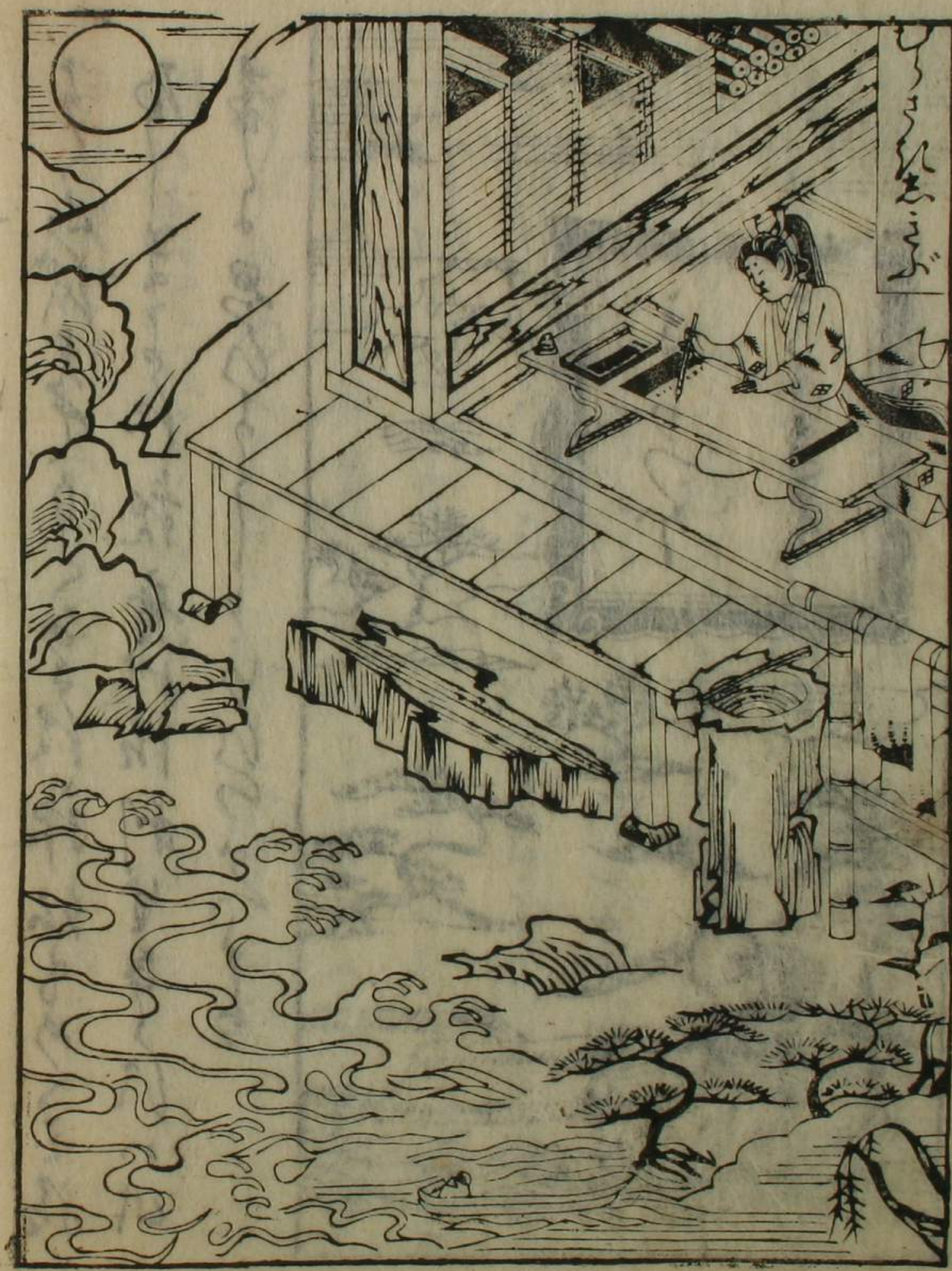


いせらよあはれをそわえさきかけなくしてんや  
 きりさくよつぎて人の心はつげやまことあり  
 あゝとの縁く物のあまげをきく心をもよお  
 五十四指の内よゆきこ女乃よまこあはれあり  
 まいどあうりー三四代のうちよ君も臣も  
 月波河をせわらこは乃せよわあれえ後  
 弦の各詩弄れゆりし時よつげてきと  
 死しぬ物よよせくきく入をもとつあまや  
 初い妻れ花のあはれこまは法よ自心とあ  
 心を林の月よ里の外まてく後たなるか

うくら紙をそくくあはれ神伝もあくと  
 今まよした親書れ法利せあはれいけ  
 事よ思ひようしとあはれいんあ







源氏袖鏡

一桐臺

とうかつか、内裏五舎乃、ま一たり、まげいさ  
 とつあも相つか、こみ今と、梅つか、たう、つは  
 友つか、まうりつか、めんうり、此臺也、る、上、天宮  
 をもつ、道の、所、何、うり、ま、と、つ、わ、け、み、と、に、女、流  
 更衣あま、こ、ま、あ、い、あ、ふ、中、ま、や、む、と、た、紀  
 き、た、に、い、河、ぬ、り、す、ら、ね、く、時、め、さ、あ、あ、ま、たり  
 と、り、あ、ら、光、源、氏、乃、内、母、あり、び、文、衣、ま、う、わ、つ、か  
 よ、任、あ、ふ、相、つ、か、の、事、ま、は、人、の、事、ま、あ、の、ま、は、後



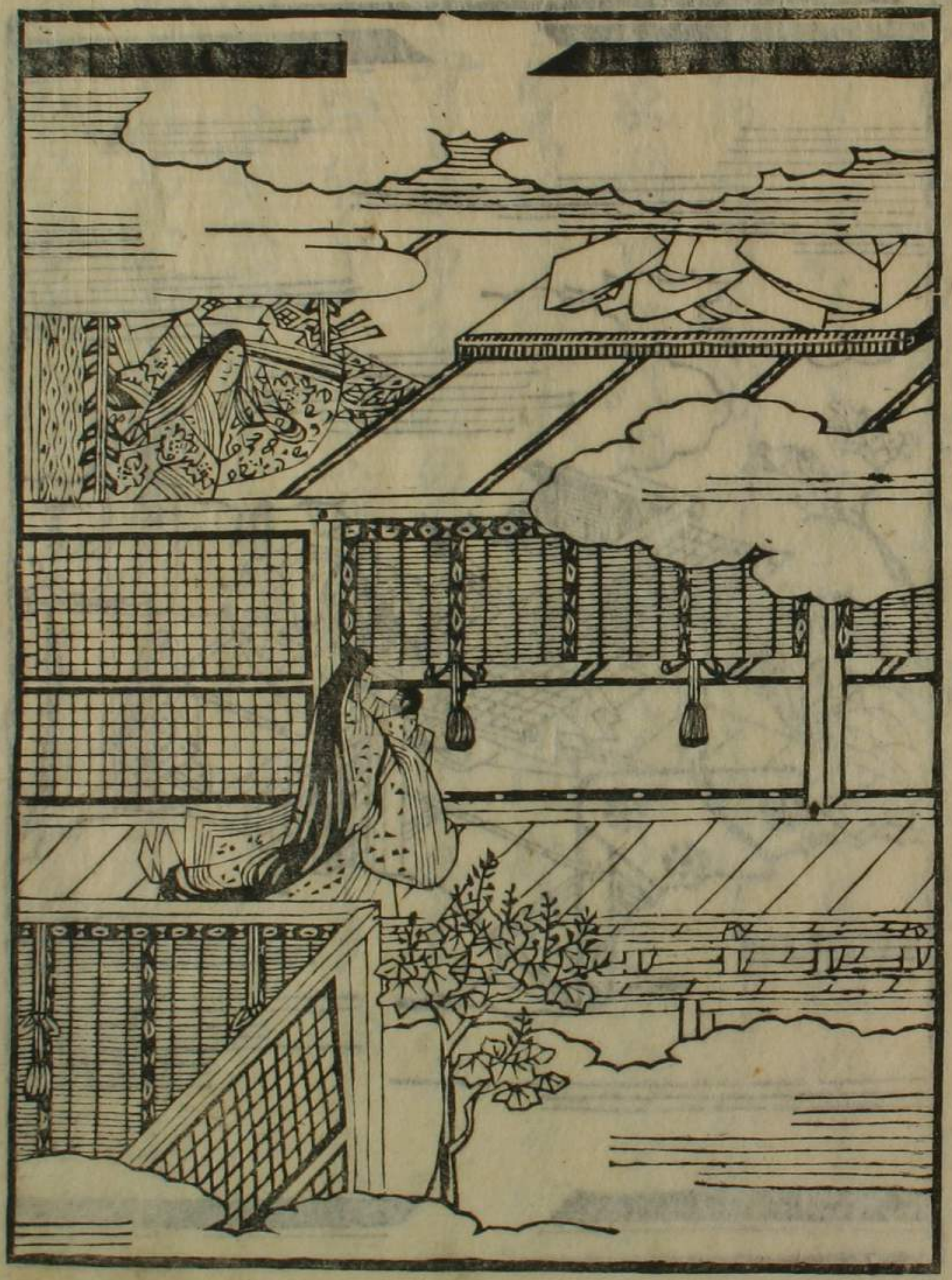
しつれも桐壺と名付た上て尊ととも相つふ  
のみもくも也乃んこころとよみ王子と  
のんこちめとよみ卿也う一人の海上人なり  
后と一人なり海をさるに申文とせ  
女治ハ三位更衣ハ四位つりてとつりて  
海に余ぬ家女御人おれお仕り取と  
大らん心と云女房の侍とあつりて  
殿上あり一の内子ハ右大臣の女御と  
てん乃内服之れとゆうを此君とつりて  
是もけ次の帝は成りていふまゝ文海と

の君とせと云大内侍乃内子に女二  
取まりて女一乃又女二の言とすその次  
にきつりての更衣の内服も世にあらはれ  
玉れ地のこ内子もまれあらぬとあつりて  
此中より三さいとて内子の海もありた  
る一とて此女更衣とつりてきつりに  
あつりて内装とまるとらん一とつりて  
かゝる地もいふとつりてあつりて  
あつりてのいふとつりてあつりて  
あつりてのいふとつりてあつりて



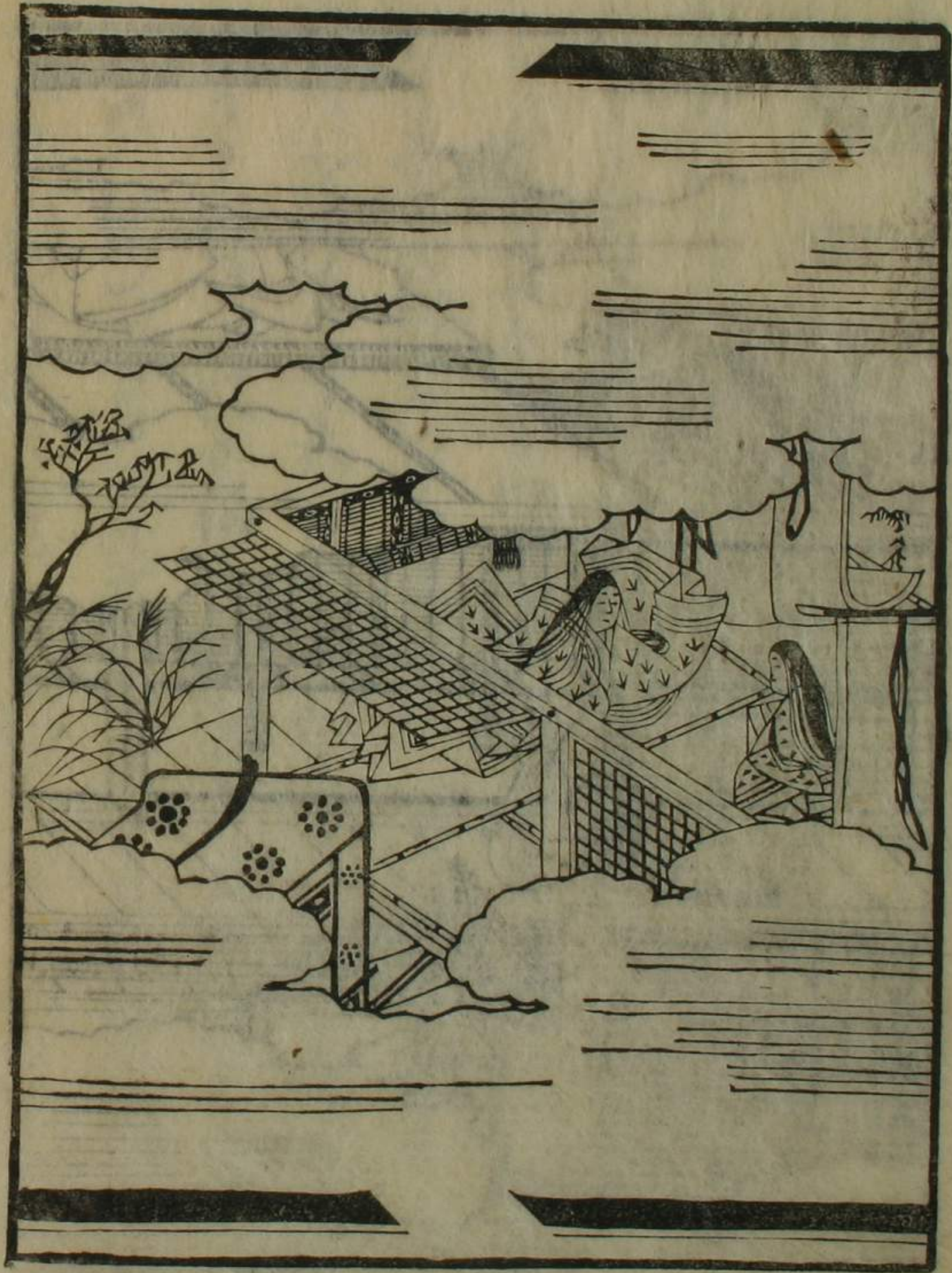
又いせあはくはうらに水邊を歩む所か  
 あんるもをられきたるしとらうら  
 せあはくはうらも打すくはえゆわ  
 うとなくくのあへん更衣

かきわきてわくをるはくはくは  
 けきいれらなるるり つぎ海り  
 けきいれらなるるり きこらや きこら海  
 けきいれらなるるり つぎもたして  
 あらうれきうれき海をれもまうそしせあはくは  
 門のしゆめうらてあうらぬきせはは  
 くのめふちもあつるくおほいあは





中々うらふたてそねと申す何事もおか  
 めしうれまこゆわたります目殺あつま  
 せんうたなくあしく地母さうれさうの女  
 衣乃ゆとれおもたんたそくふらある後  
 よらちてあうくく風船ふさちてさ  
 さきさき夕られのちとつひくも地り  
 とおちてゆふ月夜の時き種よあま  
 のゆくえは使あわび物種よ人のあつら  
 も月夜をよ上あかりをい地りさきとつ  
 衣衣の母おれさみうとれゆ衣ありゆ使





















二 常本

源氏は春に中ねときこぬ徳母は春に  
のちやく日れまよとくハん帝の女乃宮  
にくおりしますまわつ下の春は山口より  
あつりいら源氏とたあやうに時あきあハ  
世の人くもく日のまよとくたりをれぬえら  
まのこ御あましうてあかりうて人この  
ゆきうう一の姫君とはあまよとあおつを  
あのみ乃とそれやとあつりあきりあつ  
しうとあまのまわり衣あのみ乃とあまらあつ

いあよあゆこめとえさやわりつれくとうりく  
しうたうよみのあふあまよとおよしく人ま  
なわ おほしくの願を御字のふ 源氏ハあうくはあ  
つみまうらにまわつてあまよとあまらあつ例  
とわハあつりあつりあまの一の姫君のあえ  
あ乃中ねとてそれとあまよとあまらあつ  
人あつり中ねとたのしむまれうことあまア  
のせうとと人まうりて世中の女乃とあつ  
しうとあまらあつあまらあつあまらあつ  
らうてあまらあつあまらあつあまらあつ











めぬむらあへるれぬおよひをひよひ  
きよせせしむらあへるれぬおよひをひよひ  
うらておよひとくめてぬむらあへるれぬ  
のみ

おはゆわてあひうらとぬむらあへるれぬ  
らむらあへるれぬおよひをひよひ  
うらとぬむらあへるれぬおよひをひよひ  
くむらあへるれぬおよひをひよひ  
よむらあへるれぬおよひをひよひ

あひうらとぬむらあへるれぬおよひをひよひ  
うらとぬむらあへるれぬおよひをひよひ  
くむらあへるれぬおよひをひよひ  
よむらあへるれぬおよひをひよひ  
あひうらとぬむらあへるれぬおよひをひよひ  
うらとぬむらあへるれぬおよひをひよひ  
くむらあへるれぬおよひをひよひ  
よむらあへるれぬおよひをひよひ













申してはこれいふあゆみにてなよと人  
 ともなひのしほくもえあはぬ宿あつてま  
 ながき人ともなわとあつていふはくつ  
 てとんま

ふうふう小吹あつてあつてのきと引とく  
 しいしよのたそけきとるぬちたうとをん  
 ておろちあつてあつちらひと女のみと人ぬく  
 ちちちよとけちちの事をいひぬへあえ  
 下りよとれあのおろちいそりみくたのり  
 せうと源氏なとれぬとぬとちちらぬとま















をきんかんぢりしるなりとてしるすぢりしるすぢり  
りくたふぢりしるすぢりしるすぢりしるすぢりしるす  
えてたふぢりしるすぢりしるすぢりしるすぢりしるす  
のこもぢりしるすぢりしるすぢりしるすぢりしるす  
くぢりしるすぢりしるすぢりしるすぢりしるすぢりしるす  
はなこぢりしるすぢりしるすぢりしるすぢりしるすぢりしるす  
まらぢりしるすぢりしるすぢりしるすぢりしるすぢりしるす  
師しりしるすぢりしるすぢりしるすぢりしるすぢりしるす  
りぢりしるすぢりしるすぢりしるすぢりしるすぢりしるす  
ぢりしるすぢりしるすぢりしるすぢりしるすぢりしるすぢりしるす

やう月しるすぢりしるすぢりしるすぢりしるすぢりしるす  
ぢりしるすぢりしるすぢりしるすぢりしるすぢりしるすぢりしるす  
えたぢりしるすぢりしるすぢりしるすぢりしるすぢりしるす  
ぢりしるすぢりしるすぢりしるすぢりしるすぢりしるすぢりしるす  
ぢりしるすぢりしるすぢりしるすぢりしるすぢりしるすぢりしるす  
ぢりしるすぢりしるすぢりしるすぢりしるすぢりしるすぢりしるす  
ぢりしるすぢりしるすぢりしるすぢりしるすぢりしるすぢりしるす  
ぢりしるすぢりしるすぢりしるすぢりしるすぢりしるすぢりしるす  
ぢりしるすぢりしるすぢりしるすぢりしるすぢりしるすぢりしるす  
ぢりしるすぢりしるすぢりしるすぢりしるすぢりしるすぢりしるす

すぢりしるすぢりしるすぢりしるすぢりしるすぢりしるす  
あぢりしるすぢりしるすぢりしるすぢりしるすぢりしるす  
ぢりしるすぢりしるすぢりしるすぢりしるすぢりしるすぢりしるす











りいさしむりめいふんことういふせりてんれ  
 これお備ふはらぬいふふいふいふいふ  
 おるまふふふふふふふふふふふふふふ  
 むんぬのちうんけふのうんま國の海のお  
 のうんぬのふんぬのふんぬのふんぬのふんぬ  
 せふふふふふふふふふふふふふふふふ  
 けうんぬふふふふふふふふふふふふふ  
 う家ようふふふふふふふふふふふふふ  
 むんぬのふんぬのふんぬのふんぬのふんぬ  
 入ふり女ふふふふふふふふふふふふふ

